

硬膜外麻酔使用分娩（無痛分娩）説明・同意書

硬膜外麻酔使用分娩（無痛分娩）の役割とは

陣痛やお産の痛みを、主に硬膜外麻酔で和らげる方法を一般的には無痛分娩とよんでいます。あなたらしくお産をするための、分娩方法の一つです。

完全な無痛状態になると、陣痛の感覚やいきむ力もなくなってしまいます。また、痛みは身体の様々な危険な状態を伝える重要なサインでもあります。

そのため、当院では妊婦さん自身が耐えられる程度の痛みの中で、疲労や不安を和らげ、「いきむ」ための多少の痛みを残し、最終的にご自分で産んだという実感を得られるようなお産を目指しています。

硬膜外麻酔・脊椎麻酔とは

脊髄を覆っている硬膜の外側に、直径1mm程の細い管を留置し、局所麻酔薬と麻薬系鎮痛薬を注入する方法です。さらに脊柱管に近い部分に薬剤を入れる、脊椎麻酔という方法は、多くは帝王切開手術の際に行われます。

硬膜外麻酔用のカテーテルは、挿入する処置に時間がかかったり、使用中に位置がずれたりすることがあります。そのため、分娩中に挿入処置のやり直しが必要になる場合があります。

脊椎ヘルニアなど脊椎疾患合併・既往の方や脊椎の術後の方への硬膜外麻酔は、当院では行なっておりません。

*当院では、硬膜外麻酔を希望される方は原則計画分娩を行います。自然陣痛のタイミングでは、硬膜外麻酔に対応できないことがあります。

麻酔を開始する時期

- ① 可能な限りご本人の希望を尊重して開始のタイミングを決めています。麻酔開始前にあらかじめ麻酔薬投与用の硬膜外カテーテルを挿入しておきます。
- ② 陣痛の痛みが徐々に強くなった時点で麻酔薬をカテーテルから注入します。効果が現れるまで30分程度かかることが多いです。

分娩中の過ごし方

- ① 麻酔の開始時点から原則的に食事制限があります。院内で提供する軽食、水・お茶・スポーツドリンクなどの水分摂取を少量ずつ摂ることは可能です。また、OS-1ゼリーは摂取可です。
- ② 点滴投与を持続して行います。計画分娩のための陣痛促進剤も点滴で投与します。
- ③ 麻酔の程度により歩行制限、導尿（尿カテーテル留置）を行う場合があります。血圧測定、内診なども頻回になります。
- ④ 胎児心拍モニタリングは一時的な移動などを除き、原則常時行います。

硬膜外麻酔使用分娩のメリット

- ① 痛みを弱めることで、恐怖心が少なくなり分娩中にリラックスして過ごすことができます。
- ② 体力の温存ができ、分娩後の回復が早くなります。ただし、いきむときの力は通常の分娩と同様に必要です。

無痛分娩で起こりうるデメリット

- ① かゆみ、体温上昇、低血圧、悪心嘔吐(1-2%)、麻酔後の頭痛(1-2%)、下肢のしびれなどの神経障害(0.1%)、刺入部位の血腫、感染など
- ② 陣痛が弱まり、分娩時間が長くなることが多いです。また、吸引・鉗子分娩になる可能性が高くなります。帝王切開のリスクは、麻酔をしない場合と同様とされています。
- ③ 非常に稀ですが、硬膜外カテーテルの血管内迷入による痙攣・局所麻酔薬中毒、くも膜下腔流入による呼吸抑制(高位脊麻)が起こる場合があります。

計画分娩について

- ① 当院では安全なお産をしていただくために、無痛分娩は計画分娩で行うことを原則としています。計画分娩とは、予め入院日を決めて分娩誘発を行うことです。
- ② 内診所見(子宮口の開き具合など)からお産の準備状態が整う時期を予測し、ご本人やご家族の希望もあわせて、入院日を決定します。
- ③ 人員がある日中に分娩することで、無痛分娩中の重大な異常や合併症に対して迅速に対応することができます。

硬膜外麻酔の料金

別紙の案内をご覧ください。材料費高騰などにより、適宜変更することがあります。

何か体調に変化があった場合にはすぐに知らせてください。

合併症が発生した可能性がある場合には速やかに診察・対応致しますので、ご協力をお願いします。

ファミリー産院えどがわ
説明医師

年 月 日

硬膜外麻酔使用分娩 同意依頼書

ファミリー産院えどがわ 院長殿

今回私は、貴院において上記の処置を依頼するにあたり、その内容・予想されるリスク・合併症について、医師より十分説明を受け理解しました。

よって、実施を希望します。合併症などが起きた場合にはその対応に協力します。状況によっては希望しても硬膜外麻酔が使用できないことがある点も了承します。

年 月 日

本人氏名：

住所：

連絡先：

ご家族など氏名： (続柄：)

住所：

連絡先：

* ご本人が未成年であるか、ご署名が困難な場合には保護者または代理人の方のご署名をお願いします